

生産管理・物流



独自の品質保証システムを運用することで品質を最優先とした安全な製品づくりをしています。また、工場からお客様のもとへ商品を安全にお届けするため、物流の効率化や環境負荷の低減にも取り組んでいます。



私たち供給部では、安全性を最優先に、高品質な製品を安定的に低コストで供給する生産・物流体制の構築を進めてきました。国際規格のマネジメントシステム導入による食品安全の強化、調達・生産を一元管理し原価管理やロットトレーサビリティに連動する生産管理システムの運用、需要予測システムによる効率的な在庫管理などを実施しています。また、将来のスマートファクトリー化実現のため、生産ラインへのIoT導入を開始しました。今後はこれらをさらに進化させるとともに、これまでも継続的に取り組んできたサステナビリティ推進を喫緊の課題とし迅速に具現化を図っていきます。

執行役員 開発生産グループ担当 兼 供給部長
渡邊 泰一郎

生産管理

品質保証システムの運用 S

高品質で安全・安心な製品を生産し、お客様にお届けするために、商品開発、生産管理、品質保証の各部門が連携して取り組む仕組みとして、HACCPの理論および品質マネジメントシステム (ISO9001) や食品安全マネジメントシステム (ISO22000) などを複合的に取り入れた S & B 品質保証システム (SQS: S & B total Quality assurance System) を構築し運用しています。自社・関連7工場においては国際的に評価の高い食品安全マネジメントシステム FSSC22000も併せて運用しています。

スマートファクトリー化のためのIoT導入 S

設備稼働状況監視管理システムを導入し、稼働中の設備から各種データを収集しています。蓄積されたデータの解析により設備トラブルの予兆を検知し、未然に設備単位の改善策を講じることで、稼働率向上や安定稼働を図り生産性向上につなげられるよう取り組みを進めています。



設備稼働状況監視管理システムを導入したライン

生産履歴に関する情報管理 S

原料調達・生産・流通の各段階において食品の安全性を確保するため、製品に関するトレーサビリティの充実を目的とした情報管理システムを稼働させています。また、タイムリーな製品供給や在庫適正化、製品トレーサビリティを可能にする「Safety & weB」システムを構築し、開発・生産体制の効率化と安全・安心な製品づくりに活用しています。

社内コミュニケーション S

生産に関わるメンバーが個々に自律性を保ち活動しつつも、お互いの状況を理解し、安全・安心な製品づくりを進化させていくことが必要です。そのためには社内コミュニケーションを活発に行い、各部門の連携を図っています。品質保証の観点からは、本品質保証部門と各工場の品質管理の担当者が一堂に会する「品質保証協議会」を定期的に開催しています。お客様からのご指摘内容や、各工場での安全・安心に関する取り組みの紹介などの情報を共有し、さまざまな課題に対して意見交換を行っています。



品質保証協議会の様子

物流

安全・安心を運ぶ「物流」 S

工場から店頭までの商品の輸送を担う物流において、商品を破損することなく確実に運ぶことが不可欠です。実際の商品の輸送を想定したテストを行いながらその安全性を検証しています。また、商品を運ぶ段ボール資材についても強度テストを行い、輸送時・保管時の安全性の確認をしながら、適切な厚みとデザインになるような設計をしています。

商品を一時保管して各拠点に配荷する物流センターでは、商品の品質劣化および段ボールの強度低

下のリスクを抑えるために、温度・湿度の管理を徹底しています。また、センター内での保管環境を整備し、トラックへの積み込み時には特に留意した作業を徹底することにより、安心して商品を出荷できる体制を構築しています。

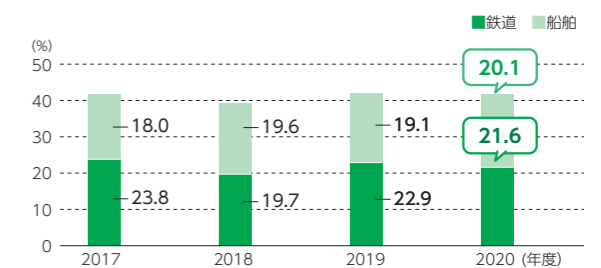
トレーサビリティ管理においては、専用のシステムで保管する商品の検品や入出荷の情報管理を行っており、商品ごとにロット単位での出荷履歴の確認が可能です。

物流における環境負荷低減に向けた取り組み E

モーダルシフトの推進と物流効率化

物流におけるCO₂排出量削減のために、車を利用した陸上輸送から、より環境負荷の低い鉄道や船舶輸送への転換(モーダルシフト)を進めています。また、商品輸送の積載効率の向上、原料・資材の工場への効率的な納品などを進め、ドライバー不足といった物流を取り巻く厳しい環境にも対応できるよう取り組んでいます。

幹線輸送におけるモーダルシフト率推移

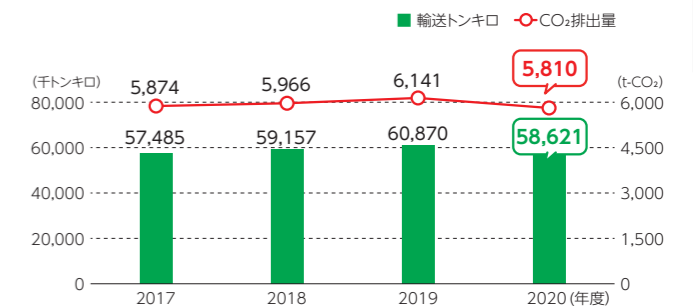


鉄道輸送からより大型輸送が可能な船舶輸送へのシフトを推進してきましたが、モーダルシフト率は横ばいの状況です。

資材軽量化によるCO₂排出量削減

CO₂排出量の抑制を目的に、商品に使用する資材の軽量化を進めています。2020年度は同じ商品と比較して前年度対比で年間41トンの軽量化を達成し、資材製造時におけるCO₂排出量の削減と、輸送の効率化に貢献できました。

CO₂排出量と輸送トンキロの推移



継続的な改善を図ることで、輸送トンキロ、CO₂排出量ともに前年度対比での削減を達成しました。